

地域医療連携室だより

～ 第 23 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

寒冷の候、皆様におかれましてはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

本院が、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを行う重点医療機関として診療を継続する中、地域の医療機関の皆様には、引き続き多大なるご理解とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

コロナに関しましては、第2波が落ち着く間もなく第3波の到来となり、既に報道されておりますように第2波を遥かに上回る入院状況となっております。

前回の地域医療連携室だよりでは、9月20日までの延べ受け入れ患者数が320名となったことをお伝えしておりましたが、1月20日現在の延べ受け入れ患者数は、761名まで急増しております。本院では、10月10日からを第3波と定義していますが、3波期間だけで403名の方が入院されています。

2波期間までに入院された358名の患者様の年齢層は、最も多かったのが20代(17%)と若年層の割合が高くなっておりましたが、3波期間をみますと、80代が43%を占めており、60代以上の高齢者では、79%と明らかに年齢構成に変化が生じています。また、妊娠中の方24名が入院され、妊娠経過に問題なく退院されました。

これまでの期間で重症化のために高度医療機関へと転院になった患者様は全体の8.7%でした。3波期間中に退院された方のうち、12%の方が高度医療機関への転院となり、重症病床のひっ迫した状況の中で転院先がなかなか決まらないということもありました。また、死亡された方は、18名(5%)となっております。

平均在院日数は11.6日で、転院の必要な方には多くの医療機関のご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症患者の入退院は、上記のような状況でした。

外来診療は、変わりなく継続しております。引き続きよろしく願いいたします。



地域医療連携室長 鮫島 百代



医事課のご紹介

医事課長 馬場 俊博

平素より格別のご高配を賜りまして、誠に有難うございます。

地域の先生方、医療・福祉・介護関係の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

2月は、暦の上では“立春”春を迎える季節ではありますが、実際は、1年のうちで最も寒さが厳しく、風邪やインフルエンザをはじめ、寒さに起因する様々な疾患を患う方が増加する季節となります。

昨年、中国の武漢で発生した新型コロナウイルスですが、我が国においても、近年では例をみない規模で蔓延し、寒さが深まる現在、その勢力は拡大の一途を辿っております。

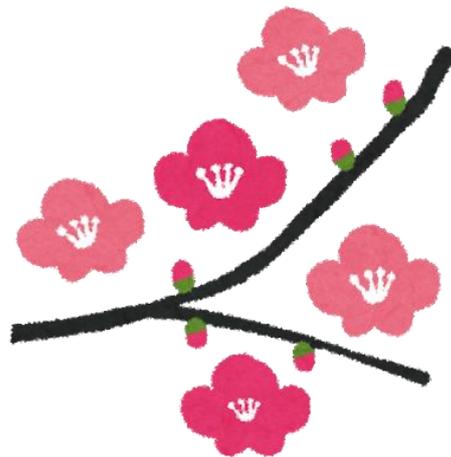
当院は、昨年5月より新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、入院を必要とする中等症の患者さんの対応を行うと共に、7月からは、新型コロナウイルス判別の検査を専門的に行う“地域外来・検査センター”の運営を行っております。当センターでは、近隣の医療機関の先生方から発熱等の有症状でご紹介頂いた患者さんに対するPCR検査を実施しております。

医事課は、地域外来・検査センターの担当窓口として、医療機関の皆さまからの予約受付、センターへご来院された患者さんの案内・誘導、患者さんならびに医療機関への検査結果のご連絡、陽性者発生の場合の保健所との発生届等の対応を行っております。新型コロナウイルスの感染力の強さを考慮し、万全の感染対策に努めておりますが、一方で運用に制限が生じることも少なからずあり、医療機関の皆さまには、ご迷惑をお掛けすることもあるのではないかと思います。

一日も早い新型コロナウイルス感染の収束に向けて、地域の医療・福祉・介護関係の皆さまと共に、尽力していきたいと考えておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【地域外来・検査センター】

- 対象患者 COVID-19を疑う有症状の患者
- 予約 平日 8:45～20:00
※20名/日
※検査は、予約日の翌日以降となります。
- 検査時間 平日 9:45～11:00
- 検査結果 検査当日の16時頃に直接、患者さんへ電話連絡後、患者さんならびにご紹介元の施設へ結果郵送
- 連絡先 06-6150-8000(代表)
※「PCR検査の予約の件」とお伝えください。



中央臨床検査部のご紹介

中央臨床検査部 部長 榎原恒之
主幹 内山 勲

当院の中央臨床検査部は医師1名、臨床検査技師11名で構成され、臨床の先生方のニーズを満たすべく臨床検査の専門家集団として日々の業務にあたっております。昨今のコロナ禍でPCR検査が注目されましたが、それを行っているのも我々臨床検査技師です。さらに当院では、認定超音波検査士が腹部領域で4名、循環器領域で1名、認定病理検査技師が1名、細胞検査士が3名おり、より専門的な知識を日々の検査に活かせるように努めております。

当院で行っている主な検査は、次の通りです。

- 検体検査(主に生化学検査、一般検査、血液学的検査)
- 輸血検査(血液型、交差適合試験)
- 微生物関連検査(結核菌の塗抹・培養・PCR、Covid-19のPCR・抗原検査など)
- 生理機能検査(心電図、呼吸機能、脈波、体成分分析、脳波、各種超音波検査など)
- 病理検査(2019年4月より院内実施:組織診断、細胞診断など)

緊急検査については、夜間・休日を問わず24時間365日対応しています。

また、院内で行っていない腫瘍マーカーや各種ホルモン、一般細菌検査などについても、大阪市立総合医療センターとの連携のもと集約化を行い、可能な限り迅速な結果報告ができるよう努めています。

- 当検査部では、保有する機器および検査技術の有効利用、さらに臨床検査技師としての地域医療への貢献のため、地域医療機関からの各種超音波検査(スクリーニング検査)および呼吸機能検査などの受託を行っています。是非ご活用ください。

【検査項目】

- 超音波検査:腹部、頸動脈、心臓
- 生理機能検査:呼吸機能、脈波

ご利用にあたっては、事前に**検査予約**が必要です。
予約については**地域医療連携室(06-6150-8067)**まで
お問い合わせください。



眼科医師のコロナ対応奮闘記

眼科部長 森脇 光康

今年 4 月頃より大阪市立十三市民病院は各科の外来と一般疾患に対する入院・手術を停止し、新型コロナウイルス感染症患者さん(中等症 I・II)の入院に特化した病院となりました。それに伴い眼科医である小生も新型コロナウイルス入院患者さんの面談等でレッドゾーンに入る運びとなりました。春には PPE の着脱の講習を受けました。手術時のガウン等と同じように考えていたのですが、脱ぐときの清潔維持が手術時とは違いかなり気を使います。また、フェイスシールドなどの厄介なものは眼科手術時にはほぼ使用せず、どちらかといえば自分を守るためではなく、術野を清潔に保つための操作がメインでしたので、感染防御とは少し違って戸惑いを禁じ得ませんでした。

そして、4 月から 7 月にかけて新型コロナウイルス入院患者のみの対応をしておりましたが、7 月下旬から外来診察も再開しております。これに伴い外来再開までの期間もレッドゾーンでの感染予防には気を付けていたのですが、外来患者と接する機会が出現したため、さらにレッドゾーンでの感染予防にピリピリしている現状であります。何人かの医師や看護師は現在までこの病院を去ってしまわれました。今後さらに医師等が減れば、現在の状況がさらに悪化するため、眼科という全身管理を行わない科であります。頑張らねばという感じです。他の病院勤務で眼科という特科であればコロナ患者さんの対応をすることがないと思いますが、この病院では対応しなくてはなりません。今のところ精神面に異常はきたしていませんが、いつまでこの状態が続くかわからない中、日々奮闘しております。

抗菌薬適正使用支援チームの紹介

薬剤部 宇野秀雄

1993 年、耐性菌への最終兵器的な存在であったカルバペネム系抗菌薬に対しても耐性をもつ、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)」が発見され、その中には現存する全ての抗菌薬に耐性の細菌も含まれております。薬剤耐性に起因する死亡者数は、何も対策を講じない場合、2050 年には世界で 1000 万人の死亡が想定され、がんによる死亡者数を超える、とした報告もあります。WHO(世界保健機関)では、2015 年 5 月に「薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン」を採択し、加盟国である日本においても 6 項目に取りまとめられ、「抗微生物剤の適正使用の推進」も含まれています。

当院では、2018 年 4 月から抗菌薬適正使用支援チームを立ち上げ、週 1 回のラウンドを行っています。医師、感染管理看護師(ICN)、薬剤師、臨床検査技師が感染症診療過程をチェックし改善点を伝える前向き監視とフィードバック、De-escalation などの治療抗菌薬の最適化、ガイドラインやクリニカルパスの見直しを実施しています。特に抗MRSA薬・カルバペネム系抗菌薬については届出制であり、全症例を介入対象として使用状況を監視しています。また、感染症に関わる職員を対象に研修を実施し、抗菌薬適正使用の啓発にも努めています。

診療報酬としての抗菌薬適正使用支援加算を算定していない他の医療機関から、必要時に抗菌薬適正使用の推進に関する相談等を受けることも、抗菌薬適正使用支援チームの業務として位置づけられております。感染症に関する地域医療の情報交換が出来る機会がありましたら、御連絡いただければ幸いです。

編集

大阪市立十三市民病院
地域医療連携室

〒532-0034
大阪市淀川区野中北 2-12-27
代表電話:06-6150-8000
直通電話:06-6150-8067
(地域医療連携室)